

解説

神戸市公共下水道 ストックマネジメント計画 取り組みと課題について

てらおか ひろし
寺岡 宏

神戸市
建設局下水道部計画課長

1 計画策定の背景

1.1 本市の施設概要

本市の公共下水道は、昭和26年（1951）から近代下水道事業として着手し、主として分流式下水道での整備を進めてきました。特に、昭和45年（1970）以降、下水道整備を市の重点施策として取り上げ、汚水および雨水管きよ、処理場、ポンプ場の建設を精力的に実施してきました。

また、平成7年（1995）1月17日に発生した兵庫県南部地震では、下水道施設全体に甚大な被害を受けましたが、平成11年度（1999）には全ての災害復旧工事を完了し、令和3年度（2021）末までに、6箇所処理場、25箇所のポンプ場、約4,700kmの管きよを整備し、下水道人口普及率は約98.7%に達しています（図-1）。

このように整備を進めてきた一方、古くから下水道事業に着手していたため、

既存施設の老朽化が進行し、改築を必要とする施設を多く抱えています。

そのため、いち早く施設の維持管理マニュアルならびに維持管理計画を作成し、これに基づき維持管理を実施してきました。

1.2 計画の背景

平成27年（2015）5月の下水道法改正を受け、平成28年度から令和元年度の過去4年にわたり、「下水

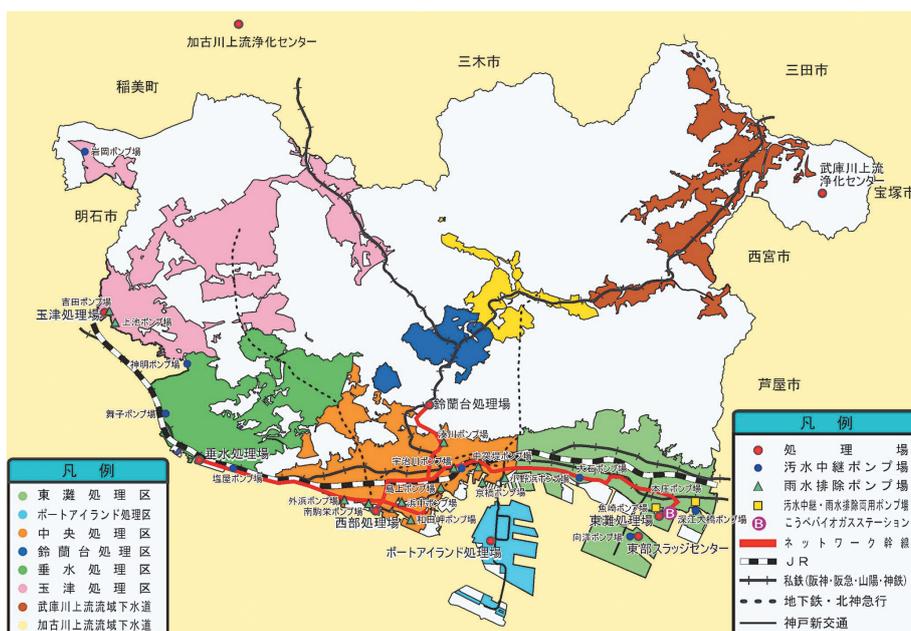


図-1 神戸市下水道計画図

道事業のストックマネジメント実施に関するガイドライン」(国土交通省水管理国土保全局(平成27年11月)、以下、ガイドライン)の考え方に基づき、管きょ、処理場・ポンプ場設備といった個別施設単位のストックマネジメント計画を策定してきました。

令和2年度からは、これらの個別施設のストックマネジメント計画を基に、予算規模や人員体制を考慮した上で、公共下水道施設の維持管理を最適化するため、全施設を対象にストックマネジメント計画(以下、SM計画)を導入しました。現在、この計画に基づき、効果的な維持・修繕および改築を進めているところです。

2 スtockマネジメント計画

2.1 計画の位置づけ

本市のSM計画は下水道施設の老朽化対策に関する実施計画であり、「こうべ下水道みらい2025」や「神戸市下水道事業経営計画」の下位計画に位置付けられています。

2.2 計画概要

本市においては、まず複合的観点(地震対策、浸水対策、水質保全、経営など)を踏まえて、費用面・スケジュール面で最優先すべき各処理場・ポンプ場の大規模な改築のスケジュール「再構築計画(処理場・ポンプ場)」を定めています。

この再構築計画を軸として、個別施設毎に、保全区分、リスク評価、管理目標設定、最適な長期シナリオ、短期計画について検討し、全ての公共下水道施設を対象とした「神戸市下水道SM計画」を策定しました(図-2)。

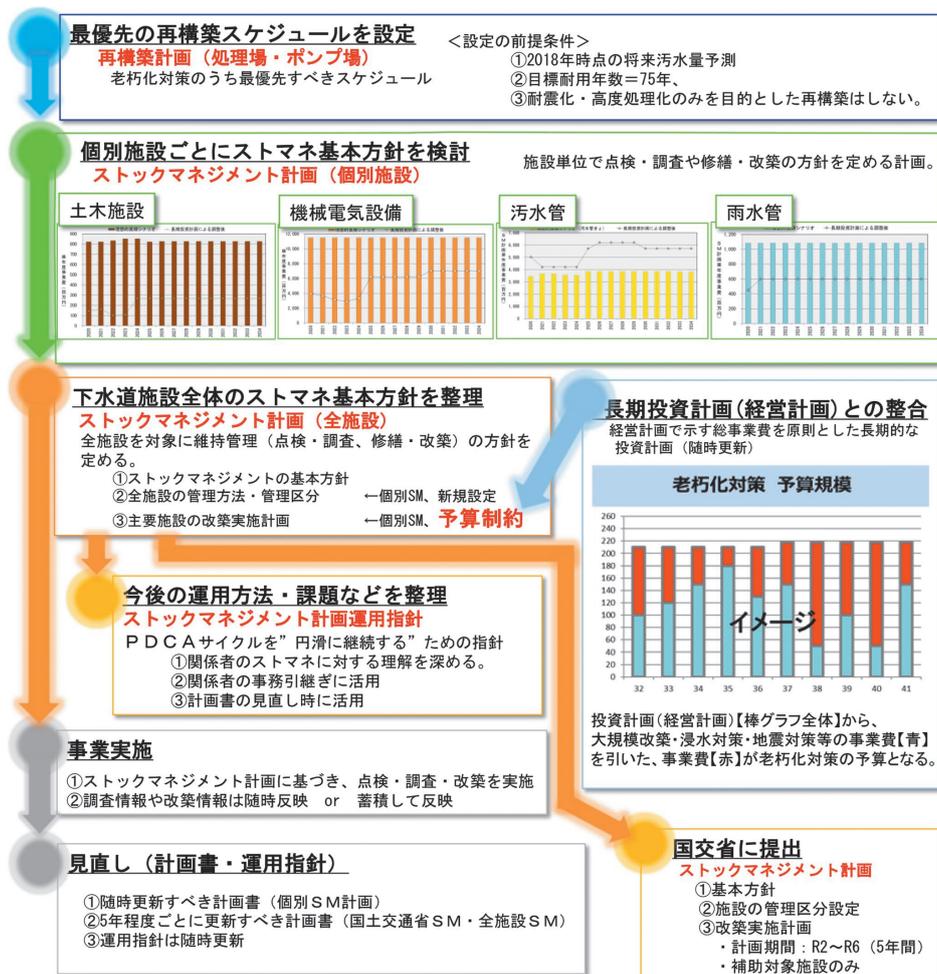


図-2 神戸市における下水道SM計画策定の流れ